

ご通行中の皆さん。私たちは「原発ゼロ長岡市民ネット」です。東京電力福島第一原発事故を繰り返させてはならないとの思いで、毎月 11 日にこの場所からみなさんに訴えをしています。

今日は 7 月 28 日に起きた熊本地震についてお話ししたいと思います。マグニチュード 7.1 の地震で、熊本市の近くの宇城市と氷川町で震度 7 を観測しました。死者と災害関連死を合わせると、災害関連死は 40 人、住宅被害は 3 万 894 棟を記録しました。道路、水道、下水道にも大きな被害が出ました。夏の真っ盛りの時期で、連日猛暑が続き、住民は後片付けのためたいへんな苦勞をしています。全国から多くのボランティアが駆け付けましたが、被災した人たちの生活再建はたいへんです。

熊本では 10 年前の 2016 年にも大地震が起きました。4 月 14 日と 16 日に立て続け大地震が起きに益城町では震度 7 クラスの揺れを観測しました。このときは熊本城の石垣や天守閣が損傷したことで覚えている人も多いでしょう。2016 年大地震でずれ動いた日奈久断層帯の一部が今回も動いたと専門家は見ています。10 年前の大地震の割れ残りが今回動いたようです。

2 年 8 ヶ月前、2024 年の元旦の夕方に起きた能登半島地震を思い出してください。志賀町と輪島市では震度 7、珠洲市やその他で震度 6 強を観測する大地震でした。能登半島沖から佐渡にかけて活断層があります。この活断層が動いて、大地震を引き起こしました。専門家は、この活断層の割れ残りに言及しています。もしこの活断層の割れ残りが動いたら、どうなるでしょうか。津波を引き起こし、柏崎・刈羽原発にも影響を与えるかもしれません。

これだけではなく、もう一つ警戒しなければならないのが長岡平野西縁断層帯です。もう少しわかりやすく言うと、長岡平野の西のへりにある断層帯のことです。これは新潟市から小千谷市まで南北に走る全長 80 キロの断層帯です。昨年 1 月、政府の地震調査研究推進本部調査委員会は、長岡平野西縁断層帯でマグニチュード 8 程度の地震が今後 30 年以内に発生する確率が 3%以下の S ランクにあると発表しました。これは、確率的にはかなり高いことを意味しています。東電からもらうカネで避難道路を建設するから大丈夫だなどと言っている場合ではありません。東電柏崎刈羽原発の 6 号機の運転をやめなければいけません。

なお、9 月 20 日、日曜日に柏崎市文化会館アルフォーレ「なくそテ原発 2026 柏崎大集会」が開催されます。龍谷大学の教授、経済学者で自然エネルギーの専門家の大島堅一先生が講演されます。関心のあるかたはぜひご参加ください。

(1,082 字)